

築地朝塾

【ニュース】
— 第 2 号 —

充実の講師陣そろそろ 秋塾（3期）スタートへ

築地朝塾は、これからの日本を支える若い方々が自分の能力を磨き、挑戦する場として 2015 年 9 月に始まりました。これまで延べ 76 名の塾生が秋（1 期生）、春（2 期生）として参加し、22 名の講師の方から経済、政治、教育、文化など多様な話を伺い、研鑽を重ねました。塾生の中には、1 期から参加している方もいます。平本塾長は「自然の生業として、学ぶ事は真摯を見極めることという 1 点に絞って、人生を送ってきたような気がする」と語ります。早朝の築地は爽やかな空気の中で、熱気にあふれています。

毎回火曜日
朝 7 時から



2016 年秋塾（第 3 期）は 9 月 6 日から始まり、11 月 22 日までの全 11 回（毎火曜日朝 7 時から、10 月 11 日は休講）にわたって開かれます。講師は各界でそれぞれ活躍し、業績を上げた人たちがばかり、次代を担う若者たちに向けて有意義で貴重な話をしてくれます。

現況と未来について、また、経営者としての苦悩や働く人のあり方など多彩なお話が聴けるでしょう。政治の分野では石破茂前地方創生担当大臣が、安倍政権後を脱む政権の動きを語られ、自らの政治的決断についても話が及ぶかもしれません。岸井成格毎日新聞特別編集委員は、激しく動く政治の流れをわかりやすく解説し、私たちがどのように目線を立てるか、のヒントを教えてください。外交評論家の岡

本行夫さんは、第 1 期の開塾講師で、朝塾の趣旨をもっとも理解されている方の一人です。日米関係を中心に世界の動きを的確にレポートされます。とくに、米大統領選挙直後だけに注目です。外山滋比古先生は 90 歳を超えてもなお、精力的に著述を続けられ、次世代へ提言されています。偉大な先輩の多彩なお話を聞くすばらしい時間になると思います。日本将棋連盟の谷川浩司会長は、勝負の厳しさをどのよ

うにお話されるのか、興味のあるところで。秋葉忠利前広島市長は数学者でもあります。原爆の悲惨さを広く世界へ伝え、アジアのノーベル平和賞とも言われるマグサイサイ賞を受けられています。高原耕三真言行者は四国八十八箇所を数回にわたってお遍路するなど修行を重ねられています。総務省の元キャリア官僚で総務審議官として地デジの普及を推進さ

れた経験をお持ちです。今回の講師陣の中で紅一点の高木ゆかり IMG Media 副社長は東京オリンピックを前に、スポーツビジネスの、世界を幅広くお聞きします。

能力を磨き、挑戦する

築地朝塾はそれぞれの分野で極めた先輩諸氏に、早朝の 70 分余りを割いてもらって、これからの人生をどう生き抜くのか、みんなで大変なヒントを聴こうじゃないかというものです。

ネット社会は誰でも名乗ることなく発信できます。匿名ですから発信者は特定できず、責任のない裏付けのない情報飛び交います。

7 月の参議院選挙の

裏舞台では誹謗中傷がネット上で飛び交い、かつてないドロドロの選挙戦だったようです。それも身に覚えのない悪質なものが喧伝されたら聞いています。長く国政選挙を指揮してきた永田町古参秘書は「正面から政策を訴えても泥水に押し潰された」と話していました。

現代社会と共存するだけでも、日

あなたのプラチナカード

さるのか。：「自分を知らうとする」と「今日の足踏みを明日の一步へ変える転機になるのです。」

私の 29 歳のクリスマス・イブは雪こそ舞っていませんでしたが底冷えのする寒い夜でした。私が毎晩のように夜回りを続けていた情報源宅は当時秋川市（現・あきる野市）にありました。その夜訪ねた情報源は暫く

頃から自分を確かな存在とする心構えが必要です。真摯を見分けることは大変難しい時代です。ひるがえって、今の自分がどれほどのレベルで行動し発言しているのか。

言い換えれば自分の力はどれくらいあるのか。：。それを知ることがで

黙っていた後に、私の取材ノートに「未知は大知を知る」と大きく書きながら、「傲慢な知ったかぶりをするな。謙虚に人の話を聞く心を持て」ということだと論ずるに言いました。その方は航空機事故調査委員会の委員長でした。

委員長は「クリスマス・イブまで仕

事をするのか。家族はどうしてるんだ」と言い、「1 時間だけだ。メモは取るな」とドンと分厚い報告書を居間の机の上に置いてくれました。

事故原因はすでに解明されて、報告書は印刷に回る直前だったのです。本物ですから偽の情報ではありません。大スクープになったのは言うまでもありません。

自分の至らなさを知ることが成長への財産なのだと、私はその取材で知りました。「知ったかぶりしたり、傲慢に振る舞ったり」していることは己の力を知らず、単なるお馬鹿さんだと学んだのです。

「傲慢さ」や「過信」を自分以外の人は減多に指摘してくれません。自分の弱点を知り、それを克服しようとするところこそが尊いことだと思おうではありませんか

か。マイナスのカードはプラスに変わる「プラチナカード」です。自分の弱点に一日も早く気づくことです。

「築地朝塾」はそのキッカケの場になると考えます。築地朝塾に来塾する講師の方々は、目の前で人生から勝ち得た凝縮した情報を惜しみなく展開してくれます。他では聞けないコンテンツを右から左へ聞き流すこ



となく、あなた流の言語に翻訳していく作業が始められれば、弱点の発見と克服につながっていくのです。己を点検し、知らざるを知ることがどれだけ自分をたくましく成長させることでしょうか。同時に自分では気付かなかった、知らなかった世界の新しい刺激を与えてくれると思いま

築地朝塾次回は「2017 年 春塾」（HP で募集開始をお知らせします）

一般社団法人 築地朝塾について

朝塾の運営を行う築地朝塾は 2015 年 8 月に一般社団法人（非営利）として設立されました。塾長・平本和生の「日本を支える若い人を育てる」という思いを実現するために、趣旨に賛同した方々で運営されています。すべてボランティアです。

組織は理事会（代表理事・金子秀明、常務理事・藤島淳、監事・国谷和夫、理事・事務局長・阿部峰子）を中心に、事務担当、広報、運営などを 16 名の参加メンバーが分担しています。また、会場となるアクア社ショールームは、アクア社の協力によりご提供いただき、最新の機器類が備えられたすばらしいプレゼンテーションルームを活用しています。

講師の方々も趣旨に賛同、ご多忙の中の貴重な早朝の時間を割いて、熱弁をふるい、最新の情報をご提供いただき、強いメッセージを伝えて下さいます。

● 築地朝塾「秋塾」募集概要

募集塾生	40 名
参加資格	20 代～ 40 代の意欲ある学生～社会人
受講料	33,000 円

● 築地朝塾 規約

1. 築地朝塾の会場は 6 時 50 分にオープンします。遅刻した場合、入室をお断りする場合がありますので、ご注意ください。
2. 会場内では飲食ができません。朝食の持ち込みはご遠慮ください。
3. 限られた時間ですので、進行については司会者にご協力ください。
4. 講座内容の公表はお断りします。
5. 当日のご連絡は、asa-info@tsukiji-asajuku.jp 宛でのメールで受け取ります。必要があれば折り返し、ご登録いただいている携帯電話に連絡します。
6. 欠席される場合は、事前に必ずご連絡をお願いします。FAX: 03-3264-0880 Email: asa-info@tsukiji-asajuku.jp

● 塾舎

「株式会社 アクア」ショールーム
〒104-0045 中央区築地 2-11-26
築地 MK ビル 1 階



築地朝塾塾長 平本和生

2016年春塾 講演要目

はやぶさ1号
成功への苦闘

(5月31日)

「はやぶさ」は打ち上げから1年で太陽を一周し、その間に少しだけ楕円軌道にする。そうすることによって、地球のそばをかすめながら地球の公転速度をもたせてスピードを増し、向きを変えてイトカワへの軌道に乗る。イトカワに到着したのは2005年9月になるが、そこで2度の着陸をした。

長さ540mの小惑星イトカワに着陸してサンプルを取ってカプセルに詰め、2010年6月13日に帰ってきた「はやぶさ初号機」の開発でプロジェクトマネジャーをやった。設計から地球帰還まで15年かかった。

地球から1億5000万

km、太陽の裏側では3億

km離れたところを飛び、

電波を受けて送るのに

片道16分、往復で32分か

かる。16分先の状態を予

想してコマンドを打って

帰ってきた状態を見るの

は16分後ということにな

り、このタイムラグの中

で制御するのはすごく難

しいことだった。

また、小惑星に行つて

帰って来るための推進機

の燃料は膨大な量にな

り、これも大きな課題だ

った。推進機の軽量化に成

功し、燃料はイオンエンジ

ンで克服した。普通のエン

ジンに比べ燃費は10倍くら

い。また、太陽電池を使

ったり、世界で初のリチウ

ムイオン電池を宇宙で使

つて、いろんなものを最

新のものに置き換えて手

を加えて軽くした。

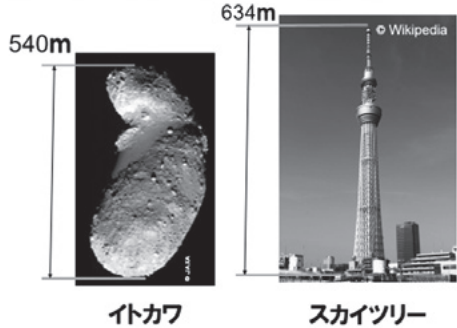
もう一つ電力の課題も

あった。イオンエンジ

はものすごく大きな電

力を食う。これを太陽電池で工面するというのは非常に難しかった。

小惑星 イトカワの大きさ



「はやぶさ」は打ち上げから1年で太陽を一周し、その間に少しだけ楕円軌道にする。そうすることによって、地球のそばをかすめながら地球の公転速度をもたせてスピードを増し、向きを変えてイトカワへの軌道に乗る。イトカワに到着したのは2005年9月になるが、そこで2度の着陸をした。

イトカワは、なんとなくラッコに見える。着陸したのはラッコの右手あたりで、幅50〜60mのところ。すべすべに見えるが、実際は

このプロジェクトが成功できたのは身の丈にあった重さ500kgと小さく、シンプルに造ったことだ。M・V（ミューファイブ）というロケットに入れるべく、いろいろなものを削って捨てたのが最大の要因だと思う。私は「はやぶさ」を7年かけて開発設計し、帰ってくるまでやったが、いくつかあったトラブルを克服したのは全部人だ。人はトラブルを克服していく度に信じられないくらい成長し、ものすごく優秀になっていく。いろいろなドキュメントを書いたり、インターフェースを決めたりとかいう泥臭いことをやって、次のステップアップにつなげる。次はそういうところをマネージメントしていかなければならない。

アポロ計画で月に人間が行ったが、アポロを打ち上げたサターン5型という巨大ロケットはもう造れないだろう。その技術は巨大なお金をかけて維持されていたが、お金をかけられなくなった途端にもものすごく膨大な技術が維持できなくなった。おそらく図面もない。図面があってもその図面がどのようにに描かれたかという心を知っていないと、だんだん形骸化していく。心が分からなくては劣化していく一方だ。

参考：イトカワは地球の近くにある小惑星グループの一つ。1998年に発見され当初「1998 SF」とされていたが、「はやぶさ」の打ち上げ後、日本のロケット開発の先駆者、糸川英夫博士にちなんでイトカワと命名された。サンプル採取するためにいくつもの小惑星の候補の中から「はやぶさ」の打ち上げ期日の関係などからイトカワが選ばれた。

2016年 秋塾 講師紹介 (敬称略)



9月6日
出口 治明
(でぐち・はるあき)
ライフネット生命保険
会長

1948年、三重県生まれ。京都大法学部卒。72年、日本生命保険入社。ロンドン現地法人社長、国際業務部長などを経て2006年に退職。同年、ネットライフ企画株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。08年4月、生命保険業免許取得に伴い現社名に変更。13年より現職。旅と読書をこよなく愛し、訪れた世界の都市は1200以上、読んだ本は1万冊を超える。著書に『直球勝負の会社』（ダイヤモンド社）、『働き方』の教科書』（新潮社）など。



9月13日
石破 茂
(いしば・しげる)
前地方創生担当相

1957年、鳥取県生まれ。80年慶應大卒、三井銀行(現・三井住友銀行)に入社。86年 父の死を受け、衆院選に自民党で出馬し、衆議院議員10期目。選挙区は鳥取1区。93年、自民党離党し、新生党・新進党に参加。97年自民党に復党。2002年防衛庁長官で初入閣、農林水産相、自民党政調会長、幹事長、地方創生・国家戦略特別区域担当相などを歴任した。



9月20日
外山 滋比古
(とやま・しげひこ)
英文学者、文学博士、
評論家、エッセイスト

1923年、愛知県生まれ。東京文理大(現・筑波大)英文学科卒業後、同大学特別研修生修了。文学博士、51年より、雑誌「英語青年」(現・web英語青年)編集長となる。東京教育大学助教授、お茶の水女子大学教授を務め、89年、同大名誉教授、昭和女子大教授。専門の英文学、思考、日本語論の分野で活躍を続ける。主な著書に「思考の生理学」(ちくま文庫)、「日本語の作法」(新潮文庫)など。



9月27日
松井 秀文
(まつい・ひでふみ)
元アフラック会長
NPO法人ゴールドリボン
・ネットワーク理事長

1944年、東京都生まれ。68年東京大経済学部卒業後、川崎製鉄入社。その後、日本で初めての「がん保険」の導入を目指し、日本におけるアフラックの設立に参画、74年、アフラック入社。95年同社社長。2005年会長。07年7月顧問。アフラック在社中から小児がんの患者・家族のサポートに尽力し、「ペアレんツ・ハウス」を東京、大阪に設立して負担軽減を図る。さらに、ゴールドリボン・ネットワーク理事長として、08年6月から小児がん克服のための研究を支援する活動なども行っている。他にも幅広い社会貢献活動を、アイデアと熱意で進める。



10月4日
岸井 成格
(かしい・しげただ)
毎日新聞特別編集委員・
前ニュース23キャスター

1944年、東京都生まれ。慶應義塾大法学部卒。67年、毎日新聞社入社。熊本支局を振り出しに、政治部、ワシントン特派員、政治部長、編集局次長、論説委員長などを歴任。2004年特別編集委員、10年主筆。13年再び、特別編集委員になり、現在に至る。他に、21世紀臨調運営委員、早稲田大学客員教授、日本ニュース時事能力検定協会理事長なども務める。著書に「政治家とカネ」「財界と政界」「永田町の通信簿」など。



10月18日
大坪 文雄
(おおつぼ・ふみお)
パナソニック特別顧問

1945年、大阪府生まれ。71年関西大大学院工学研究科機械工学専攻修了。松下電器産業(現・パナソニック)入社。シンガポール松下無線機器社長、98年松下電器産業取締役。同社常務取締役などを経て2006年同社社長に就任。08年1月に10月1日より社名を「パナソニック株式会社」へ変更し、「ナショナル」ブランドを廃止する旨を発表。12年6月パナソニック会長。13年から現職。日本生命保険評議員、関西大客員教授、帝人社外取締役アドバイザリーボードも兼ねる。



10月25日
谷川 浩司
(たにがわ・こうじ)
将棋棋士九段
日本将棋連盟会長
将棋十七世名人有資格者

1962年、神戸市生まれ。76年、史上2番目の若さでプロ棋士4段となる。詰みを読み切る鋭い終盤の技術から「光速の寄せ」の異名をとる。83年、加藤一二三名人を破り、史上最年少の21歳で名人に。通算5期、名人位に就き、永世名人の資格を得る。7大タイトル戦の全てでタイトルを獲得し、通算27期。棋戦優勝22回。2012年からトッププロとして棋士を続けつつ将棋連盟会長を務め、将棋の底辺拡大や人気上昇を図る。14年、紫綬褒章を受章。



11月1日
高原 耕三
(たかはら・こうぞう)
真言行者
福聚講主催、
元総務省総務審議官

1947年 岡山県玉野市生まれ71年東京大学法学部卒。旧郵政省に入省後、電気通信分野や地上デジタル放送化を進め、総務省では総務審議官(国際担当、郵政事業担当)などを勤めた。在職中より高野山での修行を重ね、退職後は数回にわたって四国88箇所めぐりを行う。高野山普門院にて得度。四度加行(高野山真別所)。伝法灌頂入壇了。この間御府内88所、多摩88所、信濃33観音、越後33観音、関東88所、秩父34観音、などを巡ら。



11月8日
高木 ゆかり
(たかぎ・ゆかり)
IMG Media
シニア・バイス・プレジデント

1959年東京生まれ。学習院大文学部卒業後、大沢商会で海外のスポーツプログラムを日本に紹介する事業に従事。その後、フロリダ州NBTA(ニック・ボレッテリ・テニスアカデミー=現IMGアカデミー)でスポーツ心理学者Dr. ジム・レーヤーのアシスタントとして勤務。87年よりIMG (International Management Group) 東京支社勤務。テニス選手のマネージメント業務等を経て現職。ウィンブルドン、全米・全英オープンゴルフ、ラグビーワールドカップなど多くの国際スポーツイベントのTV放映権交渉にあたっている。訳書に「ビジネスマンのためのメンタルタフネス」、「親とコーチのためのジュニアテニス」など。



11月15日
岡本 行夫
(おかもと・ゆきお)
元外務省北米第一課長・
元総理補佐官

1945年、神奈川県生まれ。68年一橋大経済学部卒、外務省入省。北米局安全保障課長、北米第一課長などを歴任し、91年退官。岡本アソシエイツ設立、代表取締役就任。96年〜98年(橋本内閣)総理大臣補佐官。2001年9月内閣官房参与、03年〜04年総理大臣補佐官。12年、マサチューセッツ工科大学CISシニアフェロー。著書に「砂漠の戦争 イラクを駆け抜けた友、奥克彦へ」(文藝春秋)、「さらば漂流日本」(東洋経済新報社)など。



11月22日
秋葉 忠利
(あきば・ただとし)
前広島市長

1942年東京都荒川区生まれ。66年東京大理学部卒。70年、マサチューセッツ工科大で数学の博士号取得、ニューヨーク州立大学講師。タフツ大数学科助教授、准教授を経て広島修道大文学部教授などを歴任。90年から衆議院議員(3期)、99年〜2011年 広島市長16年(3期)、11年〜13年 広島大特任教授。10年にはアジアのノーベル平和賞といわれるマグサイサイ賞を受賞。主な著書に「報復ではなく和解をーいま、ヒロシマから世界へ」など。

2016年 春塾の講演から

野田聖子氏衆議院議員 政治家として、 今思うこと

(4月12日)

主婦は朝はとても忙しい、特に働く主婦には大切な時間だという。だから、安倍総理が朝早く来て、夕方早く帰る「夕活」を提唱したのには「何も分かっていない」と抵抗した。これが安倍政権おろし、総裁選への布石などといわれた。女性が社会へどんどん出ないといけないのに、保育園など不十分で、朝の少ない時間をやりくりして、子供といっしょにいるのに、朝早く家を出るといのは、矛盾している。政治家になるときも、なった今もこんな男の目線といっぱい戦ってきた。今は、多様性のある社会をつくることに力を注いでいる。初の女性総理への戦いが始まっている。



朝塾の講演を終えて、塾生と交流する野田聖子衆議院議員。

取り入れた。

事実上の3代目の堅吉は、関東大震災と太平洋戦争の大変な時期に温泉村の村長を兼ねて箱根を支えた。戦後ホテルは米軍に接収されたが、温厚な紳士で米国人に尊敬されたと言われている。

富士屋ホテルでは真心を尽くすという「至誠」で貫かれている。また、不幸なネガティブなことに目をそらすことなくがっちり見るといふ気概もある。

諸田玲子氏歴史小説家 語りかけてくる歴史と 向かいあつて

(5月10日)

失望したり、悔しい思いをした時、どうやって怒りを抑え、どの時点でぶつけ、何時言うか、何時努力をするかを見きわめることが大切で、歴史から学ぶことができます。だれにもチャンスは巡ってきます。踏ん張りどころを見きわめることがとても大事だと思います。

富士屋ホテルに 夢を掛けた男たち

(4月26日)

箱根富士屋ホテル創業者の末裔である山口由美さん。明治初期の創業から戦後の混乱期を乗り切った経営者たちの活躍ぶりを披露した。

横浜の外国人相手の有名な遊郭の養子だった山口仙之助はアメリカから連れ帰った牛を売って得たお金などで、1878(明治11)年に30歳前に富士屋ホテルを始めた。外貨を獲得するという強い意志で、主に外国人を泊めていた。

仙之助の長女の婿で、実質的な2代目、正造は建築に造詣が深く、外観が日本式で中は洋式の花御殿を造った。外国人を呼び込むために日本的なものでライフスタイルとして洋風を

ありません。歴史を通して、人と自分との関係を俯瞰して見ていく能力を少しでも身につけられればと思っています。

テレビと歩んで 半世紀

(5月17日)

父親の後を継いだ俳優業からテレビ司会者に転じ、日テレの「知ってるつもり」、TBSの「サンデーモーニング」など数々の長寿番組を手掛けてきた。自らを「テレビ屋」と呼び、自分はジャーナリストではないと一線を画す。番組では時には政治的な話題にも深く切り込むが、視聴者に分かり易く伝える、面白がってもらうことが「私の役目」という。テレビは企



関口宏さんは、平本塾長との掛け合いで、講演を進められた。

画書通りやつても面白くない。ビジネスライクな仕事でいい番組はできない。それには「こうじゃなきゃダメだ」というような「ヘソ」を持った人間が必要といい、「軸足がぶれない」とも人の生き方として大事なことを力を込めた。いま時代

和僑 外国で生き抜く日本人

(6月7日)

「1回切りの人生をどう生き



筒井修さん

るか」を考えてほしい。「目標のない人に絶対、目標は達成できない」。苦難、苦境をバネにして自分の道を切り開いてきた筒井さんの熱い思い、言葉が朝塾に響いた。15歳で自動車修理工。一念発起し定時制高校から大学進学、名古屋の大手私鉄へ。40歳で赴任した香港を終

Globalな視点と 変化を恐れぬ勇気を

(5月24日)

ハリウッドの映画産業は10兆円規模のビジネスをやっている。日本の映画産業は全体で5000億円ぐらいの売り上げしかない。ハリウッドに比べ、日本はコンテンツ産業をなかなか海外輸出できていない。長い歴史の中で、ハリウッドは海外の各地にインフラを持っており、それが輸出につながっている。コンテンツをコン

スタントに供給するシステムができており、日本が見習うべき点だ。ハリウッドは新しいテクノロジーを味方にしてビジネスにつなげてきた、歴史を持っている。AIとロボットとかがビジネスの中にどんどん入ってくる。新しい技術を怖がらずに受け入れ、どんどん自分たちの味方にして、この変化を自分たちの空気にして、頑張っしてほしい。

日本でいちばん 大切にしたい会社

(6月14日)

「大切にしたい会社」はどういう会社かだが、一つは「人をトコトン大切にしている会社」。「トコトン」はいつでも、どこでも、誰でも、という意味だ。経営者が一番大切にすべきなのは、社員とその家族、2番

目は「社外社員」とその家族だ。3番目は現在顧客と未来顧客、4番目は社会的弱者、5番目が株主となる。どういう会社の2番目は、会社に関係する人が「自分たちが大切にされている」と実感している会社」だ。いい会社は残業をほとんどやらない。

大切にしたい会社に共通する経営学がある。例えば、「業績よりも正しいか・正しくないか」が大事だ。「価格競争よりも非価格競争」、価格競争は人を幸せにしない。価格競争しない産業社会の形成が重要だ。

育好宏氏上智大教授 メディアと権力

(6月21日)

私が所属している上智大学文学部新聞学科は、日本で一番最初のジャーナリズムの学科として設立された。戦後、いろいろな大学に新聞学科ができたが、現在「新聞学科」の名前が残っているのは上智と日大だけだ。マス

メディアの社会的機能としては「teacher」「forum」「watch dog」「entertainment」が挙げられる。このうち watchdog が権力監視で、ジャーナリズムとして非常に重要な機能とされている。メディアの現場で付度をしてwatchdog 機能を緩めてしまうことが起こりえないかを、自問自答できる状況になってい

るのが問題だ。現場の人たち一人一人が自分は何なのか、メディアの役割をどう担っているのかを考えることが重要だと思う。

早野透氏元朝日新聞政治部 田中角栄の時代

(6月28日)

田中角栄ブームである。早野さんの著書「田中角栄―戦後日本悲しき自画像」は、その火付けでもあった。角栄に最も近づいた記者である早野さんは、総理時代に「今日は春何番なんだ。風が強いな。しかし風が強いのはとてもいいことだ。風に負けちゃいけないんだ」と話したことに感激し、上から目線の政治家と違う人間味を心底感じたと言った。角栄が目配るきめ細かさ、人間の強さ、弱さを知った上で豪腕に動く姿をエピソードを交え紹介した。

一人夜なべして翌日の演説原稿をまとめる姿に、真摯な一面も知る。政治は人が作り、動かす、そのダイナミックな日々を聞くことが出来た。



早野透さん

塾生の皆さんへ

数字へのこだわり

80
72
30-7-1

匆しながら情報をもう1回整理し、72時間後に結論を出そうというのをこの10年、経営者として続けてきています。

もう1つ。こ

今私はいくつかの数字にこだわって生きています。1つは私が塾を10年続けると80歳になるのですが、この「80」という数字です。塾を始める前に体重が85・7^キあったのですが、今81・2^キに減りました。あと1・2^キ減らすと80^キになります。なぜかと言うと翌日3時半に起きるため月曜日にはほとんど飲まなくなった。土日曜飲まない週に3日間飲まないわけで、酒量が減ると体重が減り続け、16・秋塾の時には80^キを切っているでしょう。それから「72」という数字で

す。ゴルフを60年以上やっているのですが、72は1つの目標の数字です。これは何回か達成していますが、「72」は、犯罪で逮捕されて取調べを受けるのが72時間です。3日後に節目を迎えるわけです。そこで証拠が固まらないと釈放され、固まると地検に送られます。それから私が「72」にこだわるのは、会社の経営をやっている人な問題が出てきたときに瞬間的に怒りたくなるケースもあります。だけど、すぐに怒ってしまうとそれを復元するのに大変な労力が必要です。だからそれを反



春塾終了後に開かれた「夜塾」。時間を忘れて懇談を重ねました。

平本 和生

BS-TBS取締役会長 (現職)

1969年 早稲田大学 政治経済学部卒業、東京放送に入社。テレビ本部報道局テレビニュース部、政治部を経て、84年に外信部 ワシントン特派員。88年10月～90年3月まで「JNNニュースコープ」のメインキャスターを務める。その後、政治部長、報道局長、TBSビジョン社長、TBS常務・専務を歴任。2009年から14年6月までTBSホールディングス取締役兼BS-TBS社長を務めた。



は1週間で結論を出す。1週間かかきそうなのは即決しろ、と皆に言ってきました。

【塾生からのメール】

M・U (30代女性)

まさに『たまの選挙に行くだけ』な距離で政治と付き合っていた身として、御厨先生のお話はとても面白くて分かりやすく、政治に興味が湧きました。終わった後の青空がとても気持ちよかったです。どうもありがとうございました。ひとつだけ気になったことがあり、お願いというのも不躾なのですが・・・講義の写真が撮られるのは普通のことだと思いますが、繰り返されるシャッター音がとても気になり、お話に集中できない時がありました。

T・Y (40代男性)

今回も大変参考となりました。早野達彦さんのお話は、まさに生き証人として、リアリティに溢れるお話でした。平本塾長をはじめ、みなさまの編成力で、政治がさらに身近な問題と感じられるようになりました。御礼申し上げます。

Y・N (30代女性)

毎回、非常に興味深い話をお伺いできて、今まで自分があまり触手を伸ばしていなかった事について、考える機会を多く頂いております。引き続き、寝坊をしないように・・・頑張ってお話したいと思います。

M・M (20代男性)

お世話になっております。春塾の運営お疲れ様でございました。昨春秋塾同様に、毎週刺激的な朝を迎えることができました。

Y・H (20代女性)

日頃より大変お世話になっております。大変有意義な時間を過ごさせていただきました。本題となりますが、次回の秋塾の概要添付をありがとうございました、確かに拝受しました。お忙しいところ超一流の講師陣の皆様との出演交渉をしていただき、誠にありがとうございます。皆様からいただいた貴重な機会を活かすべく、講演を通じて精進させていただきたく存じます。

E・F (20代女性)

全11回、大変貴重な機会をいただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。11回では、真贋を見極める力はまだまだですが、時には遅刻しながらも、休むことなく出席できたことで自分がやろうと決めた

ことへの意志を確認することができました。朝塾では、自分の好みとは関係なく多方面でご活躍の方のお話を聞くことができ、大変世界が広がりました。例えば、宇宙への苦手意識から、「はやぶさ」のお話などは、決して自分から取りに行くことは考えられませんが、萩野さんのお話は大変面白く、また、けなげな「はやぶさ」の働きに感動し、すっかり聞き入ってしまいました。また、筒井修さんなどは、普通に生活していたら決して存じ上げることのなかった方だろうと思いますとお話を伺う事ができた、このめぐりあわせは必然なのだろうと思い、この出会いからどんなメッセージを受け取れば良いのか、引き続き考え中です(笑)。これら豪華講師陣の選定や交渉は困難を極めることかと存じますし、細かな運営体制についても、事務局の皆さまの熱い(篤い)お心があってのことと、心より感謝申し上げます。ご恩返しは、受講者の横のつながりを持つこと、また、この講座を次へ繋げて行くことと思っていますが現状果たせておりません。

平本さんが塩野七生さんと懇意にされているとの話をされていらした記憶がございます。若い頃に塩野さんの作品に出会い、文章だけで、なんともいえない洗練された芯の通った女性作家、との印象を持ち、以来ずっとファンです。ローマにいらっしやるので難しいとは思いますが、いつか塩野さんのお話がきけたらと思います。

【春・夜塾でのあいさつより】

K・S (50代男性)

春塾に参加して、非常に多様にわたるテーマでいろいろなことを勉強させてもらいました。特に良かったのは「はやぶさ」を開発した萩野慎二さんの研究者と技術者のコラボレーションの話です。両者はややもすると相反するところがあるのですが、ああやって問題を克服したという話が非常に印象深く残っています。

T・S (30代男性)

もともと日本の政治にはあまり関心がなかったのですが、朝塾に参加して意外と面白いな、と思って関心を持つようになりました。それが自分の中で大きな変化です。印象に残ったのは富士屋物語です。本も面白かった。塾

に関しては質問する人が毎回限られているようなので、塾生から何かしらアウトプットするアクションを起こしたほうが良いのかな、とちょっと思っています。スマホで128文字くらいで自分が感じたことを残していくことで、他の人がどんなことを一番感じているのかを共有することがいいのかな。苦にしないで楽しくみんなで出来る仕組みがもしあれば、いろんな考えとか智恵が蓄積していくのかなと思います。

I・C (30代女性)

管理職になって、経験がないところでどうやって勉強していけば良いのか悩んでいたときに朝塾に参加する機会が出来ました。塾に参加して2回泣きました。最初は野田聖子さんの話です。女性としてプレッシャーがある中で、いろいろなじめられながらもがんばっているところに感動しました。また、坂本先生の「世の中に残したい会社」ということの話聞いて、私たち自身が本当にそういう会社になれているのか、そういう会社の手伝いが出来ているのかということを考えて涙が止まらなくなりました。話を聞いて泣いたのは初めてで、自分の心の中に訴えかけてくるようなものがあるのだと思いました。

A・S (40代女性)

二人の子どもはまだ小さいのでなかなか夜に外に出る機会がなくて外との繋がりがなかったのですが、朝塾でいろんな刺激をいただいて本当に良かったです。野田さんの子育ての話もそうだったのですが、諸田さんの女性の話が非常に心に響きました。諸田さんの自分を俯瞰してみると言う話は印象的でした。私は会社を経営し始めて、怒りたくなったときに自分はその怒りをどこで怒るかと言うようなことを話されていて、自分を俯瞰してみるとということがすごく大事ななと思いました。



アクア社

株式会社アクアは、年間5000案件以上の実績を誇る、総合広告制作会社です。CM絵コンテ・カンパ制作・イラスト制作事業から始まり、デジタルソリューションの世界へと幅を広げました。

今年、2016年に創業25周年を迎え、新規事業としてデジタルサイネージと、アクアの強みであるコンテンツ制作を組み合わせたソリューションビジネスを展開。

アクアショールームは、アイディアとデジタル技術を駆使して創造し続ける、アクアのクリエイティビティをご覧いただける場所です。



発行元：一般社団法人 築地朝塾
〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-8-1 半蔵門 MK ビル 1F FAX 03-3264-0880
お問い合わせはメールで！ asa-info@tsukiji-asajuku.jp
ホームページ http://www.tsukiji-asajuku
*本紙の全ての画像・文章は転載不可です。© 築地朝塾